

埼玉県の絹産業遺産についての感慨

理事 黒澤勝利 (さいたま市)

過日、群馬県の富岡製糸場を中核とした絹産業施設群がユネスコの世界文化遺産に登録され、大勢の訪問客で賑わっている。明治期の「殖産興業」による「富国強兵」の国策上、いわゆる「絹と軍艦」は我が国の産業近代化の嚆矢となった（「絹と軍艦」とは、良質の生糸の大量輸出により外貨を稼ぎ、列強の一員としての軍事能力の向上を図る政策。隣県である埼玉県の北西部地域は、同じ養蚕、製糸、絹織物を生産し、同一の絹文化圏を形成してきた）。



「ちちぶ銘仙館」での展示

ここで富岡製糸場の建設および運営に関し

て、我が郷土の埼玉人は多大の貢献を行ったことは「温故知新」として大事な事柄であるといえる。即ち、本県出身の渋沢栄一、尾高淳忠、蕨塚直次郎（以上は深谷市）、木村九蔵（本庄市）、青木てる（小川町）並びに県令となった白根多助（2代目）、吉田清英（3代目）などの多士は、ただちに諸兄弟の念頭に浮かぶ人達であると思う。特に渋沢栄一に関しては、地元の記念館などの他に王子の飛鳥山にある「渋沢史料館」が関連資料の集積として充実している。

さらに、身近に現存する絹産業遺産群として、蚕・繭生産教習所であった「競進社」（本庄市）、大型操糸器械による均一な生糸生産工場であった「片倉シルク記念館」（熊谷市）及び「旧石川組製糸館」（入間市）並びにほぐし捺染方式による絹織物生地を制作する「ちちぶ銘仙館」（秩父市）などがあり、数か所については既に友の会見学会によって訪問したように価値の高い施設である。

このように、本県は群馬県に匹敵する実績を有していることは、名実ともに誇ってよい事柄であり、青少年に語り伝えるべき「ふるさと遺産」として、本会員の責務といってもよいでしょう。

なお、直近の出来事として、秩父の夜祭り行事がユネスコの無形民俗文化遺産として登録されたことは、本県の秩父地域の絹文化遺産として、祭り囃子と秩父音頭の保存運動（小林仲治(2017)『青淵 第814号』渋沢栄一記念財団）とともに喜ばしいかぎりである。

[補足] 最近、小生は下記の著作により、初期の蚕種家達の活躍ぶりと養蚕教師による国内の各所への伝習過程に興味を持ちました。なお、皇后による宮中養蚕行事が、明治初期の青山御所の蚕室から始まった旨の記載がある。ご一読をお薦めします。（鈴木芳行[2011]『蚕にみる明治維新一渋沢栄一と養蚕教師一』吉川弘文館）

今後のイベントスケジュール * 申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ:<http://junosaitama.net/> ブログ:<http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- 8月27日(日) 友の会見学会『浅間山天明噴火の遺跡巡り』 <前号で紹介>
 - 9月6日(水) プレミアム講座『武州藍 伝統のわざ』 <今号で紹介>
 - 9月20日(水) 友の会見学会『上総国分寺関係』 <今号で紹介>
 - 9月22日(金) まち歩き研究会「朝霞」(再企画 日時に注意) <今号で紹介>
 - 9月30日(土) 古道探索倶楽部「赤山街道・越谷道をたどるシリーズ 2」 <今号で紹介>
 - 10月26日(木) 友の会見学会『浅間縄文ミュージアムと自然史博物館』 <次号で紹介>
 - 11月5日(日) お祭りクラブ「時代まつり」(埼玉県嵐山町) <次号で紹介>
- ~~~~~

講演会『山岳信仰の歴史と民俗』を開催しました

友の会今年度第2回目の講演会『山岳信仰の歴史と民俗』が7月9日に開催されました。講師の鈴木正崇先生は慶應義塾大学名誉教授であるとともに日本山岳修験学会会長さらに日本山岳会にも所属し、自ら山に登り、世界の民俗研究を行ってきた方です。一方、講演の中では代々続く上野の火消しの家に生まれた江戸っ子であることも明かされました。



「山の日」の制定など最近の日本における山岳に対する関心は高くなってきているように思えます。現在、その多くはスポーツ登山や観光資源としての山岳への関心が中心ですが、かつての日本においては、人びとは「山」に対して、崇高な畏敬の念をもち、神のいらしむ場としての信仰心も強く、山岳信仰は日本の精神文化の根底にあると考えることもできます。鈴木先生は、講演の最初に、こうした山岳信仰に対する意識の変化を考えることで、日本の近代化の意味を浮かびあがらせることができるのではないかと述べました。

この日、講演の中で取り上げたテーマは幅広く、またそれぞれ興味深い内容を含んでいるものです。関心のある方は先生の著書『山岳信仰』(中公新書)をご覧ください。また友の会ブログでは、簡単なまとめを試みています。(筑井信明 記)

プレミアム講演会『本多静六以前の大宮公園』を開催しました

今年度も、当館の学芸員の方からとっておきのお話が聞ける、会員限定のプレミアム講座を開催します。一回目は、7月19日、最近NHKテレビ「ブラタモリ」でも紹介された大宮公園について、水口由紀子主席学芸主幹にご登場願いました。講師の水口さんは、平安～鎌倉の日本考古学がご専門ですが、12年前の大宮公園開園120年のスポット展示に際して公園の歴史を調べられた経緯があり、改めてその誕生秘話をご披露いただきました。



関東地方の梅雨明けが発表されたこの日、暑さの折、お出かけいただける会員の人数を控えめに予想していましたが、身近な大宮公園への関心の高さからか、聴講者が53名の多数になりました。大宮公園は、氷川神社の所有地を上地(じょうち・あげち)として1885年(明治18年)に、県内4つ目の公園として佐々木可村の設計により誕生しました。当初から県内ではずば抜けた広さを有した上、その後の大幅な拡張もありました。観光を主目的として東京からの来訪者を集めた明治・大正期ですが、その後の多面的な展開は本多静六らの貢献が大きかったようです。(西本豊司 記)

江の島坂神社海上渡御と湘南ひらつか七夕まつり

友の会・お祭りクラブ 7月9日に開催

参加者7名は、午前中、江の島八坂神社海上渡御を見学後ひらつか七夕まつりへ。七夕祭りは、中国の牽牛と織姫の伝説に基づきはじまり、日本へは星まつりとして伝わる。初めは宮廷貴族を中心とする都に受け継がれ、書道の上達や恋愛の成就を祈る風習となり、庶民へ普及し、地域ごとに特色のある七夕となっている。ひらつか七夕まつりは、千葉県茂原市の七夕まつり並びに埼玉県狭山市入間川七夕まつりとともに関東三大まつりの一つです。特徴は「竹飾り」が圧巻で10m級の大型七夕もあります。戦後の産業振興復興策として始まり今年で67回目。約500本の絢爛豪華な七夕飾りが中心街を埋めつくします。世相を反映した人物や出来事などを題材として製作され飾られています。



懐かしいお化け屋敷等もあり、出店の数も他の祭りとは比べ物にならない数量であった。7日～9日まで開催され見物客も凄い。日本人は祭りが好きなことを実感する。暑さもあり、人もだんだん混んできます。ゆっくりとお茶が飲める場所も見当たらず、メイン会場を見学後、3時過ぎの高崎線の列車にて帰路に向いました。(元木)

クラブ活動 今後の予定 (参加者募集)

◆第20回鎌倉街道を訪ねて 赤山街道 越谷道 2◆

9月30日(土)に「古道探索倶楽部」の街道歩き

- ◆主催◆ 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会「古道探索倶楽部」
- ◆日時◆ 平成29年(2017)9月30日(土) 9時30分～15時30分(予定)
- ◆集合◆ 東武スカイツリーライン北越谷駅改札口付近(9:30)
- ◆コース◆ 北越谷駅 → 天嶽寺 → 越谷久伊豆神社 → 野鳥の森(昼食) → 寶珠院 → 静栖寺 → 松伏神社 → 光巖寺 → 大川戸八幡神社 → 杉浦陣屋跡 → せんげん台駅
- ◆費用◆ 資料代等300円
- ◆その他◆ 歩行距離は約9kmで、史跡巡りをいれると10km少々です。歩きやすい服装・靴でご参加ください。途中にコンビニが少ないので、お弁当と飲物は必ず事前に御用意願います。保険に加入しております。体調が悪くなった方は、倶楽部員まで連絡してください。
- ◆申込◆ 9月22日(木)までに、はがきに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して、〒339-0058 さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道あて。
- ◆問合せ◆ 前日まで犬走(いぬばしり)電話 048-756-5634 当日は 小俣(おまた)携帯 090-3436-9017

◆武蔵野台地の古代・中世・近世—朝霞市の歴史と文化◆

(再企画) 9月22日(金)に「まち歩き研究会」の活動です

- ◆主催◆ 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会「まち歩き研究会」
 - ◆日時◆ 平成29年(2017)9月22日(金) 10時～15時頃 小雨の場合決行(各自で判断)
 - ◆集合◆ 午前10時00分 JR武蔵野線 北朝霞駅前
 - ◆内容◆ 武蔵野台地が荒川低地と接する朝霞市地域には古代からの生活の跡が残されています。空海伝説の残る東円寺、県南地域で唯一墳丘部が現存する前方後円墳(終塚)、中世の山城の遺構を残す「岡の城山」、江戸時代の中規模農家の屋敷、畑、雑木林を含む複合重要文化財(国指定)の高橋家など、狭い範囲に見どころが詰まっています。朝霞市博物館では宿場町の歴史や水車活用による近代化の過程も学べます。
 - ◆行程◆ 北朝霞駅→東円寺→朝霞市博物館→城山公園(山城遺跡)→終塚古墳公園(昼食休憩)→高橋家住宅(見学)→市民センター(休憩)→(バス)朝霞駅→北朝霞駅(解散) 徒歩約2時間、階段やや多し。
 - ◆その他◆ 交通費(各自)、資料代300円程度。お弁当も各自ご用意ください。
 - ◆申込・問合せ◆ ①FAX: 048-470-2758 ②Eメール(筑井): pu8n-tki@asahi-net.or.jp
③「ホームページ」の「申込フォーム」より送信フォームで。
- * 6月の再企画です。日付・曜日にご注意ください。

房総半島中央部、上総国の歴史探訪

上総国の「史跡国分寺跡・同尼寺跡・現国分寺」と「一之宮^{たまさき}玉前神社」を訪ね、古刹「東頭山行元寺^{とうずさんぎょうがんじ}」では波の伊八と高松又八の彫刻の美を鑑賞します。

- ①国分尼寺跡では復元された朱塗りの中門・回廊と展示館を見学、国分寺跡では再興された現国分寺の薬師堂内陣を特別拝観。
- ②上総一之宮では、平成の大修理が完了したばかりの黒漆塗りの重厚な社殿を参拝。
- ③行元寺^{ぎょうがんじ}では、北斎の「神奈川沖浪裏」の原景となった“波の伊八”の彫刻「波に宝珠」をはじめ、“公儀彫物師、高松又八”の修復された豪華絢爛な彫刻などを解説付きで鑑賞。
- ④昼食は市原市内の「ふさのえき食堂」で、房総の新鮮な刺身定食を賞味。

行程

大宮—首都高—東関道—海浜幕張PA—館山道—市原IC—国分尼寺跡・国分寺跡—昼食（ふさのえき食堂：地元産品直売所）—一之宮玉前神社—行元寺—市原鶴舞IC—圏央道—アクアライン海ほたるPA—首都高—大宮（18時帰着予定）

〈ご注意〉歩く場所が多いので、必ず歩きやすい服装・靴でお出かけください

日 時：平成29年9月20日（水） 雨天決行

出 発：午前7時30分（時間厳守）

集合場所：大宮駅西口・ソニックビル西側（友の会旗を掲示）

参加費：7,000円（当日集金）

◎ご参加のお申込みは～

- ・締切り：8月31日 ・定員：45名（先着順）
- ・会員限定ですがご家族、ご友人は参加できます
- ・申込み方法：往復ハガキに、見学会名・住所・氏名・会員番号・電話番号（できれば携帯）を明記
- ・宛先：〒330-0852 さいたま市大宮区大成町3-503-4 高瀬敏男 宛
- ・座席希望・集合場所地図希望・昼食の刺身が食べられない方はハガキに明記してください
- ・見学会に関するお問い合わせと当日緊急連絡先：090-9104-2979 事務局 高瀬敏男

「武州藍」伝統のわざ

～田山花袋の「田舎教師」に登場の青縞とは？～

明治時代、埼玉は全国でも有数の藍染の産地でした。羽生を中心とした糸染め、三郷・八潮を中心にした型染めについて、それを支えた職人の伝統のわざにお話と映像で触れる場をつくっていただきました。ジャパンプルーの神髄を知って暑さを乗り切りましょう。

講師の田中さんは、民俗学がご専門ですが、現在は副館長として、学芸部全体を総括的に担当され、「人々が集い、つながっていく博物館」を目指して努力されています。

講師 **田中 ^{ひろこ} 裕子 氏** 当館副館長

とき **9月 6日（水） 午後1時半～2時半**

ところ **当館講堂** **ご参加無料**

申込方法：他のイベントとの混乱が生じやすいため、下記の点にご注意ください。

通常ハガキ（62円に料金改定済）に、開催日、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記。締切：8月31日までに、下記の宛先へ必着でお願いします。

〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会
返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達にご参加いただけます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会